

精霊たちの棲む大地

白い大地の精霊



lyric by aono

photo by hiros



あの山にピンクの光が見えた時

白い大地の精霊が

この地に来たと 私は知る

大地を覆う白い雪が

今か今かと待ち望んでいた

その日が来たと 私は知る

初めて精霊に出会ったのは

何年前のことだろうか

あの日もやはり快晴で

山を見ていた私の目に

ピンクの光が射し込んだ



ひっそりと立つ白樺の木の陰で

じっと見ていた私の前に

白い大地の精霊は

ふわっと姿を現した

ピンクの光を雲で隠し

白いその瞳を私に向けた

「君は見てしまったね」 と

私の心に語りかける

「あなたはとても美しい あなたは一体誰なの」 と

私も声を出さずに答えていた



白い大地の精霊の

白い瞳に微笑がやどる

「ここに生まれた子供ならば

しっかり覚えておくがいい　ここは精霊の棲む大地

精霊の守りを受けている大地だと」

私はこっくりと頷いて　顔をあげたその時は

現れたときと同様に　ふわっと消えてしまったのか

精霊の姿は既はない

雪の上に残る足跡は　一体誰のものなのか

私に知る術はない



やがて一陣の風が吹き 白い雪が舞い上がる

宙に漂った雪煙は 辺りをうっすらと暗くして

遠くの森をしばし隠す

あれは精霊の通った証

白い衣の裾が起こした風

私が見守るその中で

白い大地の精霊は

風と雪煙を従えて 山や森や湖を巡り歩く

全ては雪と氷の下で 春に備えて眠りに入る

大きく強く育つため 春に備えて夢を見る



白い大地の精霊が

大地を覆う雪の上に 残した跡が目に眩しい

それは私へのメッセージ

白い大地の精霊に 初めて会ったあの日から

冬になるとここへ来る

白い大地の精霊に

再び出会いたいと願いつつ

私は毎年ここへ来る



今年こそは会いたいと 毎年ここへやってくる

私が子供だったのは もうかなり前のこと

それでも ここへ足が向く

白い大地の精霊に

出会ったのは夢ではないと

それを自分に確かめるため 毎年ここへやってくる

今日も山には雲がかかり ピンクの光は隠れたまま

白い大地の精霊に

今年も会えずに終わるのか



雲は風に流されて 北から南へと動いている

白い大地の精霊は

今はどこにいるのだろう

雪の重みで頭を垂れた林の脇を通り抜け

すでに南へ移ったのか

空を見上げたため息をつく

恋に焦がれた若者のように

深く深く息を吐く



体が急に軽くなり 渦巻く風に巻き込まれ

着いたところは山の上

何故か寒さは感じない

雪を被ったもみの木に 私は声をかけてみた

ここは一体どこなのかと 木は体を揺すって微笑んだ

「誰があなたを呼んだのか そしてここがどこなのか

あなたは分かっているはずなのに

あそこに佇む木の中に 白い大地の精霊が

あなたにも ほら 見えるでしょう」



もみの木の言葉に振り向けば

そこにはまさしく精霊が 木の枝に腰掛けた精霊が

白い瞳で微笑んで じっと私を見つめていた

「私の残したメッセージを お前は理解したのか」と

白い大地の精霊が 私の心に語りかける

「それで覚悟はできたのか」と

「もちろんです」と私は答える

白い大地の精霊が 冷たい息を私にかける

私の体は宙に浮き 白い衣が身を覆う



「お前も精霊となった今 この白い大地を守るため

私と一緒に行かねばならぬ」

子供のようにこっくりと 私は素直に頷いた

風に乗って 空から見下ろす広い大地は

太陽の光を反射して 白い輝きを見せている

白い大地の精霊が 初めて私に会った時

雪の上に残したのは 私に宛てたメッセージ すぐに私は理解した

――我が子よ 私が人間界においた我が申し子よ

時が来たならば 私に会いに来るがよい――



私が人間界にいた頃は

雪に描かれた紋様を 木の影だと思っていた

それが精霊達の会話だなんて

誰が知っているだろう

白い大地の精霊が

幼い私に残した影だけが 雪の上の影だけが

私にわかった唯一の 精霊からのメッセージ

精霊となった今の私は

全ての会話を理解する



荒々しく吹雪が通り過ぎたその後に

青く大きい空が広がる

木々に宿る精霊達が喜んで

新雪に落とす影も賑やかだ

雪の重みに耐え切れず 頭を垂れた木々たちも

日の光に助けられて 雪をはねのけ伸びをする



白い大地の精霊がある日私に言い渡す

「そろそろお前も独立のとき 一人でこの地を守るのだ」

「あなたは何処へ行くのですか」 心許なげに私は聞く

「遙か北の その又北の凍った大地の片隅で

氷が徐々に溶けている 何か異変が起こっている」

白い大地の精霊の 白い瞳がわずかに曇る

「凍った大地を救うため 私はすぐに行かねばならぬ」

白い大地の精霊は

空気の流れを操って 極寒の地へと旅立った



私は大気に溶け込んで 白い大地を見渡した

雪の上に くっきりと描かれたメッセージ

白い大地の精霊が 最後に残したメッセージ

――私は白い凍土の精霊となり

極寒の地で務めを果たすだろう

お前は私の跡を継いで 白い大地の精霊となり

私の愛したこの土地を未来永劫守って欲しい――

春の精霊が来るまでは ここは私が守る土地

白い大地の精霊に 私自身になった今

委ねられたこの土地を ずっと守るは我が使命



もしも あなたが雪山の ピンクの光を見たならば

それは あなたが選ばれた証

そしてあなたが雪の上の 私が残したメッセージを

解読することができたなら

いつか白い大地の精霊が あなたの前に現れる

白い瞳の精霊が 白い衣で現れる

その時が来るのを楽しみに あなたに会えるのを楽しみに

私はゆっくり待つとしよう

-end-